

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、和合圏域） 第2回会議 議事録

開催日時	令和2年9月28日（月）9時30分から11時まで
参加者	委員：15人 事務局：1人 その他：17人（高齢者福祉課2人、中区長寿保険課1人、介護事業所3人、浜松いわた信用金庫2人、富塚協働センター1人、地域包括支援センター和合6人、市社協2人）
場所	和合せいれいの里 研修センター
内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 協議体会長</p> <p>3. 自己紹介 新メンバー（4名）のみ紹介</p> <p>4. 協議内容</p> <p>①新型コロナウイルスについて</p> <p>お話「新型コロナウイルスを知って、上手に付き合いましょう」 講師；中区長寿保険課（パワーポイント使用）</p> <p>浜松市陽性者 197人＝入院6人重症者なし、191人回復へ *現在200人 PCR検査 56,631件—10件/日 *クラスター発生時200件/日</p> <p>Q；事業企画者及び関係者の責任についての対応 A；誰が参加していたかわかるもの＝名簿作成、開示すること 風評被害恐れすぎない</p> <p>②コロナ禍でもできる活動について</p> <p>○今までしてきた活動などをどう続けるのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人会等休んでいたが、ずっと休んでいる訳にはいかない。 →防災訓練などもいきなりではできない。 ・最低限の感染防止⇔理解を育む ・家事支援利用者が遠方者接触あり →2週間あけなくてはならない。支障が出た。 ・11月にポイントラリーを行う予定。→人数の配慮。住所記載。 ・活動に際し、食事への配慮をしなくてはいけなくなった。 →少人数ならいいのか？弁当は？お菓子は？ 楽しみがないとストレスがたまる。 ・敬老会行った。（6割の出席） 家族から「コロナ禍なのに・・・」という声もあった。 →あらゆる手をつくして開催。 時間短縮、フェイスシールドで対応、間隔あける、窓の開放。 ・銀行窓口もできる限りの対策を行っている。 →4月～セミナー等中止。→ビデオ対策へ ・コロナ特別定額給付金（1人10万円）→未申請者への支援 ・自治会でウォーキングや体力測定を企画。体力に合わせて行い、130名参加。

	<p>○いろいろ制限があり思うように人が集えない中、どんなことならできるか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事に関して怖がらず、手洗い等感染予防しながら工夫して行う。 ・対策をして参加し、実体験することは大事。 ・正しい知識で地域の方々へ啓発。 <ul style="list-style-type: none"> →飛沫感染、接触感染の予防法など。 ・コロナのことがだんだん分かってきたこともあるので必要以上に怖がらない。 ・富塚協働センター事業 <ul style="list-style-type: none"> →10月いきいき体操。リモートで受講。 減塩食事づくりも検討しているが、持ち帰りなど工夫して対応したい。 ・包括主催事業→会場定員は半数 ・冬に向けて地域の情報集約（発熱外来等） ・スタッフも感染源にならない配慮＝工夫しながら活動していけるように。 ・手洗いは石鹸等でちゃんと泡立てて、洗浄成分が手にいきわたるのが大事。 <p>③その他</p> <p>新型コロナウイルスに対しだんだん分かってきたことがある。</p> <p>和合町自治会がホームページ開設。</p> <p>5. 次回開催日程</p> <p>令和2年11月30日（月）9時30分～11時 和合せいれいの里 研修センター 事前打合せ；10月20日（火）9時30分～和合せいれいの里 研修センター</p> <p>6. 閉会 協議体副会長</p>
<p>今後の見通し等</p>	<p>コロナ禍で疲弊している課題等についての対策やコロナ禍の地域支援活動について掘りし話し合いを進める。</p>